

平成 25 年度 都城市文化賞

都城市文化賞は、文化の向上や発展に顕著な業績または功労のあった個人、団体に対し、都城市文化賞条例に基づき贈呈されるもので、旧都城市時代も含め、これまで学術部門 5 人、芸術部門 14 人、文化功労部門 46 人と 5 団体、体育部門 10 人と 1 団体、社会教育部門 20 人と 1 団体が受賞しています。新都城市として 8 回目となる今年の文化賞には、芸術部門と文化功労部門で各 1 人ずつ選ばれました。



芸術部門
きわき ひでこ
木脇 秀子さん

(平江町在住・70 歳)

芸術部門で選ばれた木脇秀子さんは、昭和 36 年創設以来 50 年の歴史を持つ、「城美会」の最古参加員であり、現在は理事を務め、また、平成 12 年から、都城市美術展の実行委員を務め、市の美術の発展に尽力されています。

さらに、二科美術展覧会出品作審査会において、二科会会員として推挙され、現在、二科会審査員として尽力されています。

これまでに、全国各地で 19 回の個展を開催されている外、県内外の美術展において数多くの賞を受賞され、本市を全国にアピールし芸術の普及・発展に大きく貢献されています。

文化功労部門
のぞえ りつこ
野添 律子さん

(山之口町在住・64 歳)

文化功労部門で選ばれた野添律子さんは、山之口麓文弥節人形浄瑠璃保存会に、昭和 60 年に入会して以来、三味線演奏者としてご活躍されています。

山之口麓文弥節人形浄瑠璃は、平成 7 年 12 月に、国の重要無形民俗文化財に指定され、年 4 回開催する定期公演はもとより、山之口麓小学校の学習発表会・運動会等での披露や、麓小の児童を対象にした「麓文弥節人形サークル活動」等、後継者育成にも積極的に尽力されています。

三味線は、人形浄瑠璃には、欠くことのできないものであり、語りの「泣き節」「愁い節」とよばれる哀愁をおびた独特の節まわしに三味線を合わせることは、至難の技であります。野添さんは、日々技術向上にも努めながら、この業を 29 年間一人で守り、都城市の重要な文化財保存に貢献されています。



●問い合わせ 生活文化課 TEL23-2132